

心理検査 結果報告書

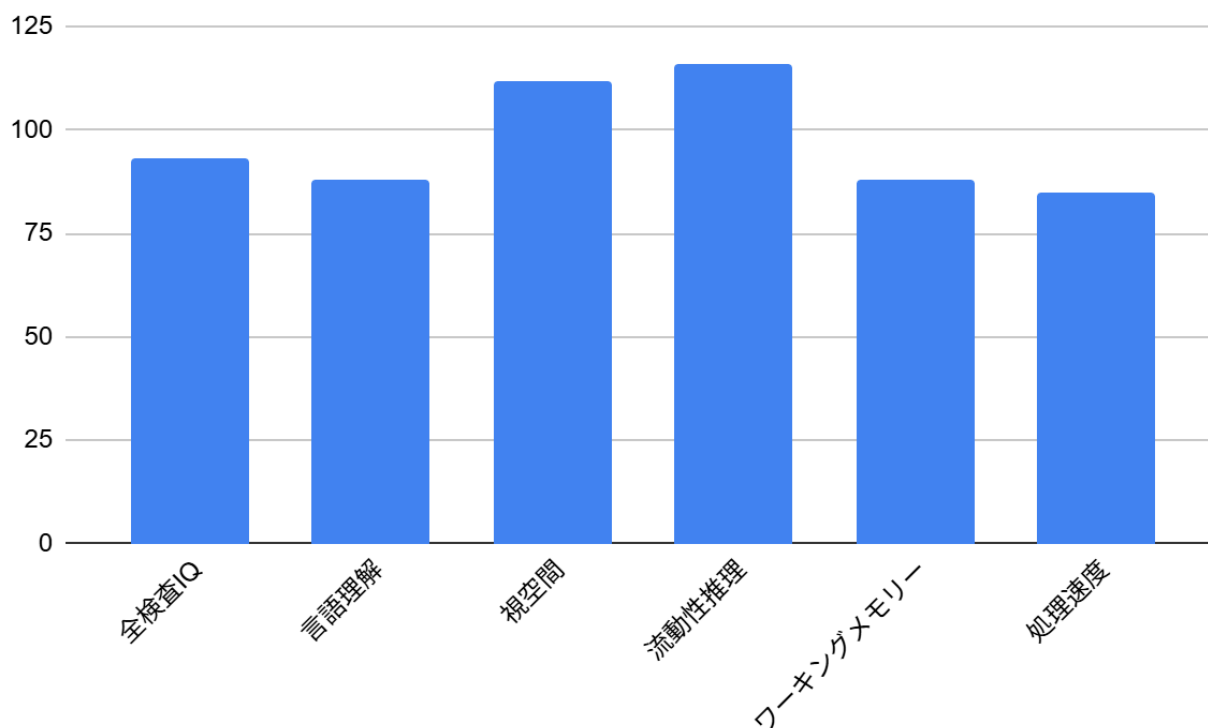
氏名	: ○○ ○○	検査年月日	: ○年○月○日
生年月日	: ○年○月○日	検査種別	: WISC-V
生活年齢	: ○歳○か月	検査者	: ○○ ○○
所要時間	: ○分	実施機関	: LITALICOジュニア

【検査時の様子】

対面時の挨拶	スムーズに挨拶を返すことができていました。
部屋への移動	声掛けですぐに応じることができていました。
自己紹介や質問への対応	好きなことや学校の様子などの質問にはスムーズに応じました。
表情	緊張はなく、最初からリラックスした表情で取り組みました。
課題への取り組み	課題には終始協力的でした。言葉で説明する課題では、「えーっと」と言って考えながら取り組む様子がありました。カードを見て答える課題では時間をかけて考えていました。また、鉛筆で書く課題では見本通り書くことに苦戦し、何度も修正する様子がありました。
難しい課題への対応	自発的に「分からない」と伝えていました。
姿勢の維持	最初は姿勢を維持して取り組んでいたものの、徐々に体の動きが多くなり、視覚刺激に注意が向いて話すことが増えていきました。検査者が数回声を掛けると、気持ちを切り替えて課題に注意を向けることができていました。
休憩	飲み物を飲むなど適宜休憩を挟みながら実施しました。

【検査結果】

	合成得点 平均=100	パーセンタイル 順位	信頼区間 (90%)	記述分類
全検査IQ	93	32	88-99	平均の下一平均
言語理解指標	88	21	82-97	平均の下一平均
視空間指標	112	79	103-118	平均-平均の上
流動性推理指標	116	86	108-121	平均-非常に高い
ワーキングメモリー指標	88	21	83-95	平均の下一平均
処理速度指標	85	16	79-95	非常に低い-平均



【総合所見】

◆全体的な知的発達水準

全検査IQ93(88—99)であり、全体的な知的発達水準は「平均の下一平均」の範囲に位置していると推察されます。

◆認知面、処理プロセスなどの特徴

- 言語理解指標は「平均の下一平均」に位置しており、語彙力や説明力は、同年齢と比べ苦手な領域であると考えられます。気持ちや考えをうまく表現できないという困りごとは、この領域の苦手さが関連していると思われる。
- 流動性推理は「平均—非常に高い」に位置しており、視覚情報から要領やコツを掴んだり、柔軟に思考を切り替えたりすることは、得意であるようです。特に、視覚情報から規則性や関連性を捉える課題で得点が伸びたことから、視覚情報からパターンを把握する場面では力を発揮しやすいと思われます。
- ワーキングメモリーは「平均の下一平均」に位置しており、見聞きした情報を短時間覚えることは、同年齢と比べても、本人の中でも苦手さがあるようです。学習内容を覚えることの難しさや、注意集中を維持することの苦手さは、この領域の特徴が影響していると考えられます。
- 処理速度は「非常に低い—平均」に位置しており、視覚情報をもとに素早く正確に作業することは苦手であるようです。特に、書き写す課題では苦手さが見られました。板書の書き写しのような作業では、時間内に完成しきれないといった状態になりやすいと推測されます。

【対応の方法と内容】

- 指示や説明を行う際は、具体的に短く伝えることが望ましいでしょう。視覚的に情報を捉えることが得意であることから、やり方を見せる、練習を挟むといったことも理解の助けになると考えられます。また、黒板や紙に内容や順番を簡潔に書くなどして、いつでも見て確認できるようにすることも良いと思われれます。
- 作業をする際は、可能な範囲で活動の量や内容・時間を調整する、ICT機器を利用するといった工夫が有効であると考えられます。取り組み方や丁寧さなど、量よりも質や過程を褒める・認めるといった関わりをすることも大切となるでしょう。選択肢式や穴埋め形式のシートを使うことで、取り組みの負担感を軽減することに繋がると考えられます。
- 検査結果より、言葉を用いて思考したり説明したりすることに対して苦手さが見られました。そのため、本人の気持ちに共感しながら、具体的な質問をして言葉を引きだしたり、本人だけでは言語化が難しい場合は大人が言語化してあげたりして、気持ちや考えを伝える経験を積み重ねていけると良いと考えられます。気持ちカードや表情カードなどを使って、表現しやすくするのも良いでしょう。
- 検査場面では、視覚刺激に注意が向いてしまい、話し始める場面が見られました。宿題をする時間など集中して取り組むことが必要な時間には、玩具や本など本人が興味のあるものは見えないような場所に片づけることが大切となります。また、勉強をする場所は固定して、そこを「勉強する場所」として空間を区切り、そこには勉強道具以外を置かないようにするのも大切です。何も貼ってなく、壁際に物を置いていない壁があるのであれば、そちらを向いて取り組める場所を勉強場所とすることも良いと考えられます。
- 学習する際は、視覚情報をもとに思考することが得意であることから、図や表を用いて情報を整理する、絵や動画などを用いるなどすると、理解しやすくなると思われれます。情報をパターンの捉えることも得意であることから、公式やキーワードをパターンとして繰り返し覚えることも良いかもしれません。作文や感想文などは、マインドマップを使う、付箋に書き出すなど、思考を視覚化して整理する方法が有効でしょう。